

成共、尙明見申度候、

一村之下のそ□たいと申ハ、大高六百石之内三ヶ二御
座候、此分ニハ麦少もまかれ不申、かなけ田ニ而、
年々不作ニ御座候、其段ハ御免奉行様かたも御存知
被遊候、

一畠方之儀、半分余も山畑ニ而御座候処ニ、只今者古
畑ニ罷成、是又年々不作ニ而御座候、殊ニ(猶) (猶)しきざる

あれ申ニ付、三ヶ一もとられ申、めいわく仕候、

右、田方畠方共ニかね相、余程御さけ被遊□□三□年
も土免ニ御定被成下候へハ、難有可奉存候、

御奉行所様

元禄六年三月六日

惣百姓共

○土免とは定免のことのようである。

二 仙石氏の藩政

1 仙石氏家譜・知行

○ 仙石家譜抄録

政明公譜

第四世の祖、諱ハ政明、はじめ政俊と称す、兵部少輔忠俊の男ニして、第三世政俊の嫡孫承祖たり、母は松平紀伊守光晟の女、万治二年己亥三月朔日酉の久保邸舎ニ生る、幼名主税助と称す、從五位下越前守に叙任

す、室は中川佐渡守久恒の女津間子、寛文七年丁未二月晦日父兵部少輔忠俊逝去、政明時に九歳、寛文九年己酉二月二十五日祖父政俊老を告て致仕、嫡孫を以て祖の跡を承て、上田城邑六万八十八石余の内二千石を従祖父治左衛門政勝に分ち知らしめ、五万八千八十八石余を襲つて、柳の間に班すべき旨命ぜらる、時に十一年、延宝四年四月十五日中川久恒の女を娶る、天和元年駿河国田中の城主酒井日向守忠能罪有て領知没収せられ、十二月十四日田中城受取の事を命ぜらる、貞享元年正月二十二日、越後国高田城在番を命ぜらる、

宝永三年正月二十八日、松平伊賀守忠周が居城但馬国出石城に所替を命ぜらるゝ、同年六月九日初めて出石城に入封す、宝永五年、政明今年齡五十一男子皆早世し、嗣子なきにより、家臣たりといへとも支族仙石朝貞ハ円覺院殿の玄孫にして嫡流たるにより、養て嗣子とせんことを譲し願書を出す、七月二十一日聽許さる。享保二年六月六日、江戸、西の久保邸舎に於て逝去、行年五十九、三田永隆寺に葬る、真龍院殿徳巖雄義大居士と号す、室中川氏は正徳四年十一月十一日逝去、行年三十九、三田永隆寺に葬る、清宝院殿円珠日淨大姉と号す、

政房公譜

第五世の祖、諱は政房、円覺院殿の長男閔一検校久忠三代仙石勘解由政治の嫡男、母は支族和泉守政勝の女、延宝元年四月廿二日信濃國上田に生る。初め監物、後外記と称し、また鞠負と改む、宝永五年七月二十一日政明公の養子となる。時に三十六歳、室は津裳子、西

尾七兵衛教寛御小姓組番頭牧野の女、元禄十二年十一月二十八日信州上田に來て合巹す、宝永五年十二月十八日、父政明に從て登城せしに、從五位下信濃守に叙任せらるゝ、享保二年八月三日襲封、享保十九年六月六日寺社奉行加役を命ぜらるゝ、享保二十年三月二十三日病の為逝去、行年六十三、三田永隆寺に葬る、大雲院殿慈潤義徹大居士と号す、室は享保二年八月二十三日逝去、三田永隆寺に葬る、清妙院殿円光日周大姉と号す、

政辰公譜

第六世、諱ハ政辰、幼名陽之助と称す、実は支族仙石采女政因の七男にして、生母は政因の側室小山氏の女なり、享保八年八月二十一日江戸本所の邸舎に生る、同十七年八月三日政房公の養子となり、同年十一月十八日西の久保邸舎に移住、室は政房公の三女諱ハ増子後、享保二十年四月二十三日父政房公西の久保邸舎に逝去、六月十七日老中連署の奉書により翌十八日名代として土井伊賀守登城、父政房の遺領相違なく賜わる。延享

二年正月二十六日婚姻、三月二十九日舍弟金五郎政芳を養子とする、政芳、宝暦三年八月二十日西の久保邸に逝去、明和七年十二月三日、支族丹波守久近三男友之助を養ひ、二女明子に配して嗣子とせん事を願う、六日願の通許容せらる、安永八年七月二十四日出石に逝去、遺命により宗鏡寺に葬る、実相院殿諱巖了真大居士と号す、室須磨子は享和元年五月四日逝去、行年七十三、貞相院殿淨連日応大姉と号し、三田永隆寺に葬る、

久行公譜

第七世、諱は久行、幼名友之助と称す、実は支族仙石丹波守久近の三男にして、生母は久近の側室木俣氏なり、宝暦三年十月二十八日江戸溜池の邸に生る、明和七年政辰の養子となる、時に十八歳、室は政辰の二女明子、明和八年二月二十二日父政辰の願により二十九日菊の間席となる、政辰御奏者番たるを以てなり、安永三年五月十二日側室関根氏に男子をもうける、名を

鉄之助と称せしめ、土岐氏を称号となす、安永四年四月十八日婚姻整う、父政辰逝去により、安永八年十一月六日襲封、柳の間席命ぜられる、天明五年九月十七日病のため出石に逝去、行年三十三、いまた鉄之助を世子と定めざるを以て喪を発せず、二十二日病氣急により江戸において鉄之助に相続の願書小笠原近江守を以て老中に差出す、十月十四日喪を発す、出石経王寺に葬る、大慈院殿仁讓徳理大居士と号す、室明子は文化十一年三月廿二日逝去、照慈院殿妙仁日讓大姉と号し、三田永隆寺に葬る、

久道公譜

第八世、諱は久道、字ハ世成、幼名鉄之助と称す、兵部少輔久行の男にして、生母ハ久行の側室関根氏なり、安永三年五月十二日江戸西の久保邸舎に誕生、初め土岐を以て称号とす、世統を継ぐに及て仙石氏に改め、從五位下に叙し、越前守に任す、致仕して後、播磨守に改む、室ハ酒井雅楽頭忠恭の女輕子、久道天明五年

九月二十二日世子となる、時に十二歳、十二月十四日

遣領相違なく賜わり、柳の間に班すべき旨命ぜられる、

寛政四年六月二十七日婚姻整う、文化十一年九月二十日致仕、家督を長男政美に譲る、同年十一月十八日出

石に帰着のち城内西の郭に隠栖をもうけ、西御殿と称せしむ、文政七年いた嗣子なきまま病相増し、恢復

のほと覚束なきにより、文政七年六月十九日末男雅次郎を道之助と改名せしめ江戸へ発駕、七月九日到着せ

しに、政美ます／＼差重りけれハ道之助を養子とし、跡式相続の事を十三日願い、十四日寅の下刻逝去のよ

し告来る、然るに道之助幼稚たるにより、久道しはらく国政を閔里監吏らが言上を聞くべしと命す、閏八月十五日道之助に家督相違なく下し置るる旨告来る、天

保五年九月四日逝去、行年六十一、遺命により出石宗鏡寺に葬る、天真院殿機峰紹輪大居士と号す、室輕子は天保六年十一月十日江戸西の久保邸舎に逝去、行年六十四、常真院殿清心日淨大姉と号し、三田永隆寺に第九世、諱は政美、幼名主税と称す、越前守久道の嫡男にして、母は酒井忠恭の女なり、寛政九年九月二十九日江戸西の久保邸舎に生る、長して従五位下に叙し、讃岐守に任せられ、又美濃守に改む、室ハ松平伊豆守信明の第五女錦子、文化十一年九月二十日父久道多病ニ而隠居願出でしにより、家督相違なく賜わる旨命ぜられる、文化十三年九月二十五日婚姻整う、文政七年三月十六日出石發駕、四月五日着府の参勤の旅に、途中麻疹を煩ひ、着府後追々不相勝、医師共尽力せしかと其功なくして終に五月三日簀を易ふ、行年二十八歳、然れども嗣子なきによりて、暫らく喪を秘す、舍弟雅次郎を出石より召呼寄せ、養子の心組す、雅次郎途中において道之助と改名、七月九日着府、十三日急養子願書秋月筑前守を以て老中松平和泉守役宅へ差出、首尾能落手相成る、七月十四日喪を發す、信恭院殿義山

葬る、

政美公譜

二 仙石氏の藩政

英徳大居士と号し、三田永隆寺に葬る、

久利公譜

第十世、諱は久利、幼名雅次郎と称す、越前守久道の十二男にして、生母は側室杉本氏なり、文政三年二月二十三日出石に生る、土岐を称す、後仙石に改め、世統を繼ぐに及て從五位下に叙し、讚岐守に任せらる、室は安藤氏、文政六年三月十八日文武に成長の旨を舍兄政美より老中に届出、此時仙石を称す、文政七年七月十三日舍兄政美の急養子となる、閏八月六日養父政美の遣領を賜い、柳の間席に命ぜらる、天保六年八月公辺より家政向の儀に付家臣の面々御呼出あり、寺社奉行脇坂中務大輔役宅に於て糺問せらる、十二月九日御裁許、奸臣の者共死刑・重科・遠島等に処せらる、同日老中松平伯耆守の役宅に於て、家政向不行届の段不調法に被思召、依之城地其儘被差置、高五万八千八拾八石余の處、弐万八千石余被召上、三万石高に被成、且閉門を被命、天保七年五月十一日百五十日に開門、

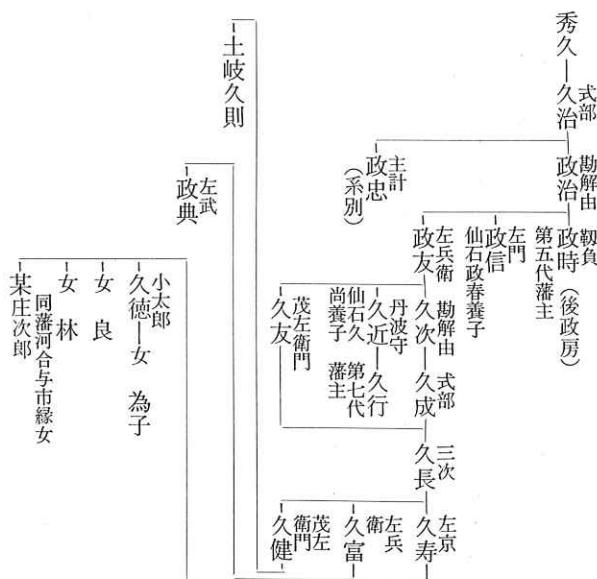
十二月九日未た若輩の儀に付、一類阿部能登守・中川修理大夫へ家政向申合せ、心付候様公命あり、天保十四年七月二日家臣三奉行兼勤関口齡介身分容易ならざる不正の儀これあるにより、一類阿部・中川両家にて召捕の上、江府に於て吟味を遂くべき旨老中真田信濃守より内意あり、依て当方に於て召捕、両家へ差し度旨を内願し、同十一日夜召捕として齡介居宅へ人數差向る処、途中に親類共出迎ひ、恐入自殺候旨申達すによりて、改の上塙埋に致置、家族は親類共へ警固せしめ謹慎を命ず、七月二日当分家政向阿部・中川両家にて助力に可及旨老中真田殿より内意ありたり、八月十三日老臣酒勾内記並嫡子彦三、江府に於て書取をして身分不正の廉糺間に及ぶ処、父子共伏罪、一書を残して自殺す、文久二年十一月朔日今般御改革に付、帰邑の暇を賜ひ、八日発駕し二十五日着城す、此年公辺に於ても御改革あらせられ、当家に於ても夫々改正を要すべき廉ありければ、兼て実甥銳雄へ内命を下す、

銳雄儀十一月十四日夜中俄に殿中に出て夫々へ申渡す
仙石織人ら年寄役自宅監禁を命ず、年寄役堀新九郎江
戸より帰郷の途中に付帰着の節途中迄親類迎に罷出警
固召連帰るべき申渡し、二十四日帰着す、十二月二
八月六日妾腹恒之助病身に付、実甥銳雄事仮養子に仕
度旨伺書を差出す、慶應元年五月七日恒之助事退身願
の通許容、十三日銳雄を養子に仕度願書差出、十五日
登城の処、養子願の通許容せらる、明治二年二月十七
日追々御所より被仰出之趣に付、奉勅改典といへる職
制書、且版籍返上の願書差出す、明治三年正月二十八
日致仕す、静涯と改名、後また久利に復す、十一月二
十日東京府貫属を命ぜられ、後出石清水の別荘に移住
す、明治九年十一月十二日出石を發し、十七日東京の
邸舎に着す、明治十九年三月九日嫡室正子逝去す、小
石川大乗寺に葬る、法蓮院殿妙華日経大姉と号す、明

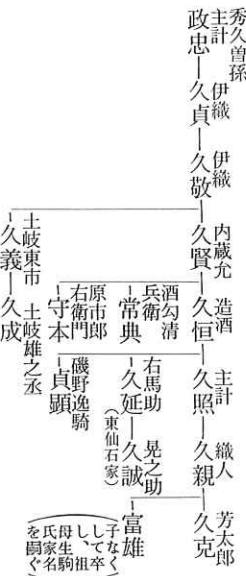
治三十年六月六日逝去す、年七十八、大乘寺に葬る。

二 仙石式部（左京）家系図

『仙石家譜』



三 仙石主計家（西仙石）系図 『仙石家譜』



免狀表新発毛付
高千八百九拾四石四斗八升四合 七ツ四歩六厘余
夫口米共
一米大豆千四百拾三石三斗弐升弐合

内

千百九十三石六斗壱升三合 米

弐百拾九石七斗九合 大豆

山之中

郷村御高
高七千七百五拾七石六斗三升五合 七ツ四歩三厘

同改出共
高九千八百四拾壹石五斗弐升四合 五ツ八歩五厘六

免狀表新発共
高九千九百八拾八石五斗弐合 五ツ六歩七厘余

外ニ一千五百六十九石三斗六升 万引物

郷村御帳本高
高千六百六拾石九斗七升七合 八ツ四歩八毛ニ当

郷村御帳改出共
高弐千四拾四石弐斗九升六合 六ツ九歩壱厘三毛余

免狀表新發共
高弐千八拾三石五斗七升三合 六ツ七歩八厘三毛

内百八十九石八升九合 万引物

内

出石町分

三 享保三戌年御物成米・大豆納辻免平均目録

『出石江御所替之節書類』 出石神社藏

夫口米共
一米大豆五千七百六拾三石八斗八升

同惣毛付
高八千四百拾九石壠斗四升弐合 六ツ八歩四厘七毛

免狀表新發共
高九千九百八拾八石五斗弐合 五ツ六歩七厘余

外ニ一千五百六十九石三斗六升 万引物

郷村御帳本高
高千六百六拾石九斗七升七合 八ツ四歩八毛ニ当

郷村御帳改出共
高弐千四拾四石弐斗九升六合 六ツ九歩壱厘三毛余

免狀表新發共
高弐千八拾三石五斗七升三合 六ツ七歩八厘三毛

内百八十九石八升九合 万引物

内

二 仙石氏の藩政

五千貳百拾壹石六斗九升四合	米	高壹万貳百六拾壹石六升壹合	六ツ七歩五厘四毛
五百五拾貳石壹斗八升六合	大豆	高壹万千七百三石壹斗三升五合	五ツ九歩貳厘貳毛
同改出共 高壹万貳百七拾貳石七斗三升五合	下郷	高壹万貳千三百貳拾三石六斗七升九合	六ツ六歩二厘四毛
免状表新発共 高壹万千六百貳拾四石貳斗九升五合	六ツ貳步三厘九毛	同改出共 高壹万貳千三百貳拾三石六斗七升九合	六ツ七歩五厘四毛
免状表新発共 高壹万千九百九拾八石三斗七升七合	万引物	免状表新発共 高壹万九百八拾壹石四斗四升貳合	外ニ一千三百四拾貳石貳斗壹升七合
外貳千百五十壹石九斗壹升貳合	万引物	夫口米共 高壹万九百八拾壹石四斗八升三合	万引物
同惣毛付 高九千八百四拾六石四斗六升五合	内	夫口米共 高壹万九百八拾壹石四斗八升貳合	六ツ三歩壹厘貳毛
夫口米共 一米大豆六千四百拾石貳斗八升五合		一米大豆六千九百三拾壹石四斗八升三合	
内			
五千九百六十三石壹斗貳升六合	米	五千七百壹石九斗七升壹合	米
四百四十七石壹斗五升九合	大豆	千百七十九石五斗壹升貳合	大豆
同改出共右込高も入 高九千八百八拾貳石六斗七升三合	養父郡	六拾四石壹斗五升四合込高除	
四ツ九分九厘壹毛		高八千四拾七石貳斗八升七合	
		六ツ壹步三厘	

免状表新発共

高壱万八百四拾三石七斗九合 四ツ五分五厘余

外ニ武千六百武十七石四斗四升七合 万引物

同物毛付

高八千武百拾六石武斗六升武合 六ツ四毛余

夫口共

一米大豆四千九百三拾三石壱斗九升八合

内

三千九百八十武石五斗八升壱合 米

九百五拾石六斗壱升七合 大豆

美含郡

免状表新発共
郷村御高

高九千九百八拾石三斗五合 五ツ八厘七毛余

同改出共

高壱万四百八拾四石四斗四升三合

免状表新発共
同物毛付高

高壱万七百八拾九石五斗八升七合 四ツ七步五毛余

外武千九百拾五石九斗 万引物

同物毛付

高七千八百七拾三石六斗八升七合 六ツ七步五毛余

武万六千五百武拾三石武斗七升 米

夫口米共

一米大豆五千七拾七石四斗八升三合

内

四千四百武拾石武斗八升五合 米

六百五十七石壱斗九升八合 大豆

右四郡合

免状表新発共
郷村御高

高四万八千石 五ツ四步九厘武毛余

同改出共

高五万五千五百八拾石三斗六升六合 五ツ武步六厘武毛

免状表新発共
同物毛付高

高五万八千武拾七石四斗武升七合 五ツ武步六厘壱毛

外壱万七百九拾五石九斗四升五合 万引物

免状表新発共
同物毛付高

高四万七千武百三拾壱石四斗八升武合 六ツ四步六厘三毛

一米大豆三万五百武拾九石六斗五升壱合 納辻

内

二 仙石氏の藩政

四千六石壱斗八升壱合

大豆

一都合三万五千貳百八拾四石七斗五升貳合

但州播州
六郡納辻

播州

但、小物成米ニメ貳千九十四石八升七合
右ヲ御定納ニ加テ

加東郡

加西郡

三万七千三百七十八石八斗三升九合
六ツ五歩三厘壱毛ニ当

郷村御帳本高
高壱万八拾八石八斗五升三合
免状表新発共

免状表新発共
高壱万百四拾三石三斗貳升八合
四ツ六歩八厘七毛

外ニ百四拾六石貳升九合

万引物

同惣毛付
高九千九百九拾七石貳斗九升九合
四ツ七歩五厘六毛

夫口共
一米四千七百五拾五石壱斗壱合

郷村御帳本高
高五万八千八拾八石八斗五升三合

六ツ七厘四毛

免状表新発共
高六万八千百七拾石七斗五升五合

五ツ壱歩七厘五毛

外ニ壱万九百四拾壱石九斗七升六合
万引物

同惣毛付
高五万七千貳百貳拾八石七斗八升壱合
六ツ壱歩六厘五毛

西 松平伊賀守様御代出石御取辻・御所替以後御取辻
『但州叢書』山之井一五 出石神社藏

○ページ数の関係から内容は表にした。

出石藩年次別収納高

年 次	年貢収納高	内 訳	
		但馬 4 郡	播州 2 郡
1701(元禄14)	石	石	石
2(" 15)		27,865.528	4,023.207
3(" 16)		28,464.326	3,794.952
4(宝永 1)		30,473.694	3,942.393
5(" 2)		30,777.130	3,961.767
6(" 3)	33,452.795	30,939.919	3,840.035
7(" 4)	32,860.255	28,725.666	4,727.129
8(" 5)	33,154.575	28,248.660	4,905.915
9(" 6)	33,485.304	30,646.959	2,838.345
1710(" 7)	32,261.720	27,996.717	4,265.003
11(正徳 1)	33,949.994	28,912.288	5,037.806
12(" 2)	33,007.975	28,312.887	4,695.088
13(" 3)	32,762.159	28,199.959	4,562.200
14(" 4)	32,190.903	27,696.450	4,494.453
15(" 5)	34,676.205	29,827.032	4,849.173
16(享保 1)	33,254.924	28,614.454	4,640.470
17(" 2)	34,683.703	29,889.708	4,794.625
18(" 3)	35,286.081	30,530.980	4,755.103
19(" 4)	33,344.062	28,331.495	5,012.567
1720(" 5)	34,138.945	30,145.018	3,993.927
21(" 6)	32,909.264	28,007.668	4,901.596
22(" 7)	31,943.241	26,920.730	5,022.511
23(" 8)	33,626.616	28,606.391	5,022.225
24(" 9)	33,736.729	29,104.453	4,632.276
25(" 10)	33,075.322	28,817.324	4,257.998
26(" 11)	34,995.693	30,708.485	4,247.208
27(" 12)	34,686.305	29,896.721	4,789.314
28(" 13)	34,852.634	29,885.787	4,966.847
29(" 14)	33,221.795	28,630.185	4,591.610
1730(" 15)	31,107.739	27,561.418	3,546.321
31(" 16)	31,883.251	27,806.590	4,076.661
32(" 17)	30,750.355	26,578.950	4,171.405
33(" 18)	32,499.136	28,219.788	4,279.348

二 仙石氏の藩政

年 次	年貢収納高	内 訳	
		但馬 4 郡	播州 2 郡
1734(享保19)	31,603.826 石	27,313.361 石	4,290.465 石
35(" 20)	34,020.506 石	29,519.293 石	4,501.213 石
36(元文 1)	30,672.772 石	26,529.312 石	4,143.460 石
37(" 2)	33,123.574 石	28,776.579 石	4,346.995 石
38(" 3)	29,199.115 石	24,828.638 石	4,370.477 石
39(" 4)	33,594.196 石		
1740(" 5)	28,207.376 石		
41(寛保 1)	30,801.512 石		
42(" 2)	33,021.661 石		
43(" 3)	30,554.450 石		
44(延享 1)	31,147.746 石		
45(" 2)	28,114.575 石		
46(" 3)	33,089.826 石		
47(" 4)	29,076.464 石		
48(寛延 1)	31,075.789 石		
49(" 2)	28,597.769 石		
1750(" 3)	32,724.873 石		
51(宝曆 1)	32,024.697 石		
52(" 2)	32,697.252 石		
53(" 3)	31,936.345 石		
54(" 4)	28,949.453 石		
55(" 5)	27,687.093 石		
56(" 6)	33,400.968 石		
57(" 7)	33,226.012 石		
58(" 8)	32,952.630 石		
59(" 9)	32,252.119 石		
1760(" 10)	32,693.312 石		
61(" 11)	34,071.129 石		
62(" 12)	32,769.033 石		
63(" 13)	33,772.971 石		
64(明和 1)	32,786.145 石		

三 御侍帳

凡例

御家中御知行御役付並御屋敷付、但、御親子御勤之御身分

ハ御親父様ニならべ出ス、ハ御知行御役席ニかまわづ御屋敷統ニ出須

岡本久彦氏所藏

2 家 臣

六百石御年寄

「仙石造酒之助殿北隣岩田一学
内蔵之允殿北隣」

「武之甫」

「西御門御番所北側」

「西御門北番所前」土岐東市

(百石) 勤役中老

「西御門御番所北側」

(三百五拾石) 勤役中三百五拾石

「西御門御番所北側」

御作事所北側

倉品老之助

(百石) 勤役中三百五拾石

「西御門御番所北側」

(三百五拾石) 御書翰役

「西御門御番所北側」

酒勾鹿之助
「清兵衛」

百石

稻垣 恰

(百石) 勤役中百三十拾石高

大森 登

(百石) 勤役中百三十拾石高

櫟田軍次

百石

伊木町

伊木町

(五百石) 勤役中右同

河合惣藏

伊木町北側

河合惣藏

(五百石) 勤役中右同

谷野猪右衛門

伊木町北側

伊木町北側

伊木町北側

(五百石) 勤役中右同

一柳弥五作

伊木町北側

服部弥五兵衛

(千石) 御年寄心儘御勤

〔「造酒之助」〕

御評定所前突当

(三百五拾石) 御年寄

〔「造酒之助」〕

(三百五拾石) 御年寄

内蔵之允殿子息

仙石造酒之助

(百七拾石勤役中武百五拾石高
御側御用人)

井上長兵衛

武人扶持九石

揚枝谷

依田又次
大矢嘉兵衛

(百七拾石勤役中三百石高
御中老)

本間左内

百拾石

瀬戸与右衛門
中西百助

新知武百石御物頭

磯野源太左衛門

百石

横山弥惣左衛門
野崎市太夫

(八拾石勤役中
百三拾石御勘定)

堀
中村又太郎
〔七郎兵衛〕

百石
〔九拾石〕

龟井矩藏
〔岡部助右衛門〕

(百五拾石勤役中武百五拾石高
御小姓頭御用人兼帶)

波多勘左衛門
〔儀左衛門〕

百石
〔九拾石〕
四拾俵五人扶持御代官

横山弥惣左衛門
光明院前
右同断
三好源藏

八拾石御地方役

梶田武内

百石

依藤仲津
〔左右藏〕

武人扶持九石

谷山磯部御長屋
小山田重蔵

三好扶持武拾五俵

岩鼻筋
明珍伊左衛門
〔久太郎〕

(五拾石三人扶持勤役
五拾俵五人扶持勤役)

内藤五郎兵衛

勤役五拾俵五人扶持

曲淵喜八郎
〔荒井吉次〕

三拾俵五人扶持

河野九十九
村山喜次郎

武拾俵五人扶持
(拾三石三人扶持)

浅井六郎右衛門
谷津小次郎

幼年二付六人扶持

平野龟之助
〔喜兵衛〕

八拾石

惠崎富次郎
〔又左衛門〕

柘植猪之助

二 仙石氏の藩政

百五拾石御目付	西山岡右衛門	捨石式人扶持
式百五拾石若殿様付	金沢弥太郎	川口宇藏
百三拾石御普請奉行	岡木吉左衛門	津田幸之丞
三拾俵四人扶持	宗鏡寺町稻荷前	中山新吉
(八拾石勤役中 百三拾石高御勘定)	金蔵院北	閔口順助
六人扶持 (本高八拾石) 百石御免状頭	同 所	横山平蔵
九石式人扶持	四郎左衛門殿子息	「麻見四郎左衛門」
九石式人扶持	同所突当	麻見文次
九石式人扶持	宗鏡寺町西側	「專右衛門」
九石式人扶持	竹村次良右衛門	右同断
九石式人扶持	西川順藏	九石式人扶持役料式石
九石式人扶持	土肥喜右衛門	右同断
九石式人扶持	長岡平次	右同断
九石式人扶持	清水六右衛門	九石式人扶持
四百石 (三百五拾石) 百五拾石御内所付	大室勘助	都築藤右衛門
右同断	中野忠兵衛	杉原甚左衛門
右同断	芝田宇左衛門	金沢弥次兵衛
右同断御鷹匠	高橋五右衛門	「喜三太」
右同断右同断	関 左平太	乗竹李右衛門
(百五拾石勤役中 百五拾石京都御留守居)	御番所前北側	水原九郎兵衛
本間多宮		

御小姓	多宮殿子息
(百五拾石勤役中 〔百式拾石〕 先手物頭 拾人扶持)	鐵砲町北側
八拾石御引請	小出左次兵衛 〔小出左次郎〕
百五拾石御目付 百石午正月式拾石 附加増	小出左次郎 田中善兵衛
八拾石	太田忠兵衛
(四拾俵五人扶持 大俵七拾俵高)	中嶋作左衛門
四拾俵四人扶持	真野勇吉
(四拾俵四人扶持 〔御地方役〕 〔三拾俵四人扶持〕)	井上源吾
四拾俵四人扶持	白井浅右衛門
(四拾俵四人扶持 勤役五拾俵五人扶持御側)	中嶋作左衛門
五拾俵五人扶持	柳町
(四拾俵三人扶持勤役 五拾俵四人扶持御代官 〔三拾俵四人扶持 勤役五拾俵五人扶持〕)	依田兼之助 土肥少兵衛
百石御目付	(三拾俵五人扶持 〔幼年二付当分六人扶持〕)
堀江五郎 〔權太左衛門〕	柳町東側北
式百石御旗奉行 〔式百石〕	熊谷五郎助 増田藤助
谷野忠太夫 〔小源太〕	

四拾俵五人扶持	本间丈助	百五拾石町御奉行	浅村禅藏
捨式石三人扶持	芦沢清蔵	百石	舟木喜五郎
九石武人扶持	土肥忠之助	百五拾石御目付	岡部四郎左衛門
三拾俵五人扶持	川口長右衛門	(武百三拾石御用人役 御小姓頭差合之節ハ御小姓支配	堀新九郎
上馬場丁	東側南方	百五拾石	馬場茂兵衛
三拾俵三人扶持	谷野八十五郎	百五拾石	下馬場丁東側南方
(勤役中五拾俵六人扶持	西山善右衛門	百五拾石	山路太之助
百石	西山清左衛門	百五拾石	河野半兵衛
(百石勤役中百八拾石高 郡奉行	鷺見久左衛門	百五拾石御目付	渡辺喜左衛門
百七拾石	磯野源八郎	四拾俵四人扶持	鳥居源左衛門
七拾俵五人扶持	藤沢忠太夫 <small>(藤沢次助)</small>	百石	渡辺孫次
百式拾石	中村小弥太	百三拾石	小出作平 <small>〔高山貞之進〕</small>
百石	柘植宗左衛門	五拾俵五人扶持	草川源右衛門
百五拾石	岡嶋平三郎	百石	片山新九郎
五拾俵四人扶持	同町西侧南方	五拾俵六人扶持	渡辺仁左衛門
六拾俵五人扶持御代官	早川治部左衛門	百石	二ノ宮奎之助
新地百石浦手船奉行	新地百石浦手船奉行	百石	弓削八左衛門

二 仙石氏の藩政

五拾俵四人扶持	山路へもろこみ 川嶋辰次	三拾俵四人扶持	新橋 依田良藏
九石式人扶持	博労町 西側上り	九石式人扶持	大沢利右衛門
式拾俵三人扶持	早田源右衛門	式拾俵四人扶持	多田助之丞
〔五拾石三人扶持勤役〕	宇野数右衛門	〔四十俵五人扶持勤役〕 〔当分四人扶持〕 〔七石式人扶持幼年二付〕	〔東側南外〕 〔善蔵〕 田中勘藏
三拾俵五人扶持	長谷川柳哲	九石式人扶持	原 半弥
五十俵五人ふち	大岩小早	〔三拾俵四人扶持勤役〕 〔九石式人扶持勤役〕	重田忠藏
〔五拾俵五人扶持勤役中地方〕	同町東側上り	〔九石式人扶持勤役〕 〔三拾俵三人扶持〕	守山瀬左衛門
〔九石式人扶持勤役〕	関口左侍郎	〔九石式人扶持〕 〔御小普請奉行〕	守山多三郎
〔百石勤役中百三拾石高御側頭取御膳番大納戸官〕	依田徳左衛門	九石式人扶持	和田又兵衛
〔六十俵四人扶持勤役中六拾俵五人扶持勤役中百石勤役目付〕	山村 貢	九石式人扶持	依田猪之助
百三拾石御目付	宇野孫太夫	〔桜尾〕	山崎佐五兵衛
長谷川忠次	白田弥右衛門	〔桜尾〕 〔俵以下同〕 〔四拾俵五人扶持〕	吾妻新太郎 「左源太」
同町細間			

二 仙石氏の藩政

拾武石三人扶持	岩瀬千八	藤助殿子息	増田右源太
拾七石三人扶持	酒井万右衛門	弥五兵衛殿子息	服部新次郎
三拾表三人扶持	〔兵太夫〕一門	十学殿子息	竹村丹外
九石五斗武人扶持	岩波半右衛門	惣左衛門殿子息	西川平学
御小普請	〔弥三郎〕一門	橋本半藏	藤沢文男
九石三人扶持	大沢新助	五人扶持	浅井市三郎
拾三石三人扶持	高橋猪太夫	五人扶持	経王寺東
拾五人扶持	田結庄町上丁西側	百石	小泉周洞
	橋口大四郎	御医師方	大鍛冶細間
五十俵五人扶持	八木町上ノ丁南側	鷹取条徳	萩 玄維
拾四石三人扶持	同町清水小路	八木町下丁南側	杉立以成
拾武石三人扶持御取締	心光院下川端	本町中南側	西方寺下隣
七石武人扶持	白杉嘉蔵	渡辺東陽	中山泉庵
七石武人扶持	仁井左市兵衛	宗鏡寺町中西側	中野柳専
	山本丈助	本高寺門下	広瀬長淵
本町御制札下モ南側	林 嘉吉	川瀬玄洞	
才兵衛			

八人扶持	宗鏡寺町東側 永井玄健	百五拾石	真田新助
九石武人扶持	田中源助	百八拾石	会田五郎八
九石武人扶持	中嶋丑太郎	本知八拾石百武十石高	佐治八郎右衛門
九石武人扶持	小林直之丞	百八拾石	中西久兵衛
九石武人扶持	宇野民次郎	本知八拾石勤役中百武拾石	白井源左衛門 <small>「屯」</small>
九石武人扶持	仁井和祖吉	百拾石	白井惣五郎 <small>「新之助」</small>
九石武人扶持	桐原半藏	百石	石原新吾
九石武人扶持	依田来助	武百石	増田七郎
九石武人扶持	林 勇吉	百五拾石	土川藤藏
九石武人扶持	百三拾石	加納新五兵衛	石井左太夫
江戸御屋鋪	本知百五拾石武百五拾石高	清水孫之助	小川乙次郎
河野丹次	本知百五拾石勤役中百石	松原 郡	宇野半右衛門
白井宇右衛門	五拾表六人扶持勤役中八拾石	鷺見小源太	下川茂右衛門
大河内九十九	四拾表四人扶持勤役五拾俵五人扶持		
依田市右衛門	四拾表四人扶持勤役五拾俵五人扶持		
平尾七左衛門	六拾俵六人扶持		
神谷七郎右衛門	五拾俵六人扶持		
百八拾石	本知百三拾石百五拾石高		
本知百三拾石百五拾石高	武百石		
本知百三拾石百五拾石高	本知百三拾石百五拾石高		
百八拾石	百八拾石		

二 仙石氏の藩政

五拾表五人扶持	辻 嘉平次	捨式人扶持	河野小左衛門
武拾人扶持	井上右門	五拾表五人扶持勤役百式拾石	早川千吉
四拾表四人扶持	加倉井勝次郎	本知百五拾石定府中百八拾石	小林弥門
四拾表四人扶持	角田作次郎	本知六拾五石定府中百石	関口善兵衛
四拾表五人扶持	小山六左衛門	本知百石定府中百三拾石	藤岡隼太
六拾表四人扶持勤役中五拾表五人扶持中野平内	服部新之助	本知百石定府中百三拾石	牧野猪三太
拾八人扶持	佐藤丹右衛門	本知百石定府中百三拾石	藤岡彦四郎
四拾表五人扶持	西村 勇	五拾俵六人扶持定府中七拾俵六人扶持草川助左衛門	
三拾表四人扶持	長谷川伝左衛門	六拾俵五人扶持定府中八拾俵五人ふち鶯見嘉右衛門	
拾三石三人扶持		五拾俵四人扶持定府中六拾俵六人ふち竹村左市右衛門	
三拾表四人扶持勤役四十俵四人扶持		斎藤民次	
五拾表三人扶持	井上猪之助		
八拾石	平林右源太		
四拾表五人扶持	拾石式人扶持		
拾人扶持	小原金兵衛		
拾石三人扶持	佐藤熊五郎		
九石式人扶持	宮川久左衛門		
拾石式人扶持	坂野忠右衛門		
九石式人扶持	川瀬吉左衛門		
拾人扶持			
依田助太夫			

三 仙石氏の藩政

田中五太夫	山本八十七
三木平兵衛	田中与助
上田喜太夫	宮内村
伊藤岸右衛門	河本与平次
石田円七	堀内権右衛門
中田又助	中村伊八
内藤小八	魚屋町細間角 組役寺西与惣太
羽田喜惣	川原町大橋近所 組役森垣園右衛門
福富佐右衛門	福嶋甚八
早田勇八	山崎料平
小西 室	綱嶋林兵衛
御弓組	雨森小藤太
御弓組	中井宗助
御弓組	川見小平次
御弓組	林源六
御弓組	浅田銀太夫
中沢林七	中嶋長藏
武井郷兵衛	淺田銀太夫
武井郷兵衛	川見小平次
小頭勤	林源六
拾六表持 魚屋町本町下ル橋詰組	中井宗助
三人扶持 小頭須貝左市兵衛	川見小平次
御旗小頭格三人扶持	林源六
五俵外武俵心付野田源八	中嶋長藏
浅村禪藏	中井宗助
百五拾石	川見小平次

二 仙石氏の藩政

小御料庄町西側 小坂比右衛門	中沢善太夫
御弓組 植村常七	福田藤作
御弓組 森田早右衛門	多田岩右衛門
御弓組 博労町上西侧 田中清右衛門	右同断
小勤代 新町南側 松井郷太夫	多田岩右衛門
御弓組 中安曾太夫	背尾才助
御弓組 田路長太夫	右同断
御弓組 柳沢和三七	横井良助
御弓組 神野厨助	多茂木社近所 組役
七軒町橋近所 丸山己之八	山本銀右衛門 上田才右衛門
御弓組 横井良助	背尾才助
鍛冶屋村中南側 湯口蔦右衛門	福田藤作
昌念寺下川端 岡本彦助	多田岩右衛門
芳沢丈太夫	中沢善太夫
宮崎彦市	
松岡沖右衛門	
古田瀬太夫	
川原町土橋近所西側 田結庄善次郎	
浅崎与七	
田原浦右衛門	
森垣次郎兵衛	
小頭勤	
中嶋喜兵衛	
鑛治屋村 高見曾右衛門	
御弓組 小頭勤	
磯野源太左衛門	
拾人扶持 小頭富岡李兵衛	
鑛治屋村 高見曾右衛門	
御弓組	
鑛治屋村 高見曾右衛門	
御弓組	
小頭勤	
鑛物師町北側西 中嶋喜兵衛	
式百石	

齋藤岩尾

拾六俵

三人扶持 小頭片岡仁左衛門

新光院下川端 森谷徳平

小頭勤

右同断 久喜田芳太夫

柴原元右衛門

新町片原 山本太平次

小人町東側細間近所 組役宮下与五左衛門

鍛治屋村中程北側 小川郡八

御弓組

浅崎幸右衛門

右同断

宗鏡寺町黒門近所 中村藤七

川原町西側細間近所 浅水藤藏

御弓組

中村銚八

小人町細間 永沢角藏

長谷川案右衛門

足立孫七

金古太兵衛

永井園太夫

本知百拾石百五拾石高

井上三郎左衛門

拾六俵

小頭中嶋半八

森垣新六

御弓組

森田新八

七軒町西側 橫川今右衛門

博労町西側 塩見源助

野地初右衛門

鍛治屋村上 米木銚右衛門

宮内村 岡山十平

上原左平次

大治吉太夫

裏町細間 岡本亦兵衛

北垣喜右衛門 家木貞七

二 仙石氏の藩政

御弓組	宮田藤八	宗鏡寺町東側黒門近所
右同断	吉岡彈九郎	町田良八
	森谷喜八	新町片原
	川原町西側出口	森谷喜八
	岸料喜六	川原町西側出口近所
	大森弥助	笠原幾兵衛
	木村忠次	永井太七
小頭勤	組役宮崎梶兵衛	御小普請方見性寺前西側
御足輕都合七組	中村宇七	守山瀬左衛門
百四拾人	小頭共	下村大沢新助
御普請奉行支配		小林市右衛門
渡辺得斗	宗鏡寺町上川端	かじや山廻り御足輕三人
勤役五十俵五人扶持同断小御料庄町称名寺前 多田助之丞		川原町
鈴木源藏	浅田銀太夫	木綿右衛門
御郡奉行		田結庄善次郎
武百石鐵砲町橋詰 乗竹李右衛門		
百三拾石高智明院下角 斎藤岩尾		
百八拾石高上馬場町高徳寺前 鷺見久左衛門		
御郡組	川原町横丁北側	武百石鐵砲町橋詰
	武田平内	乗竹李右衛門
	牧田久右衛門	百三拾石高智明院下角
	西村伊平次	斎藤岩尾
	山本甚平	百八拾石高上馬場町高徳寺前 鷺見久左衛門

下目付	小御料所町西垣運右衛門	馬場五藤次
裏町北側	西川幾右衛門	七軒町東側
谷山御長屋上	西川幾右衛門	丸山伴右衛門
道本直右衛門	道本直右衛門	新町横丁
鍛治屋村入口北側	福岡伊作	前田常右衛門
小人町川山越佐五右衛門	小人町川山越佐五右衛門	右同断
同町入口東側宮崎喜代七	博労町神子細間	同断
稻垣才助	稻垣才助	町田宅右衛門
鍛治屋村裏古田忠次	小御料所町東側石野嘉兵衛	札場下目付
八木町上ノ丁北側滝川喜蔵	八木町上ノ丁北側滝川喜蔵	川原町下ノ丁東側
宗鏡寺町堤神藏	宗鏡寺町堤神藏	宮崎小野右衛門
七軒町大橋向高橋代助	七軒町大橋向高橋代助	川原町裏丁
本町上横丁東側宮谷隆蔵	本町上横丁東側宮谷隆蔵	山中小兵衛
宗鏡寺町橋近所谷村清八	宗鏡寺町橋近所谷村清八	山崎伝兵衛
本町上横丁東側宮谷彦惣	本町上横丁東側宮谷彦惣	御町奉行
下目付格	本知百五拾石浅村禪藏	岡木琢磨
九夷式人扶持	上馬場丁西側	谷山智明院近所
九夷式人扶持	田結庄町上之堀端	町同心
九夷式人扶持	山田吉右衛門	森垣新助

二 仙石氏の藩政

九儀武人扶持	谷口甚助	荒井嘉平次
右同断	野村島十郎	山内弥十郎
右同断	森垣小七	山添宗六
右同断	裏町鉄砲町突當下南側	小林藤次郎
右之外御足輕タ浮人武人 彦右衛門橋詰人	岡崎源藏	今村伊三郎
御櫓奉行	川瀬孫太夫	安住宇吉
式百石 上馬場東側	甘利六左衛門	利七
西山清左衛門	竹内市兵衛	小使 保田清助
百三拾石 下馬場東側	柏木藤太夫	同御雇
河野半兵衛	渡辺仁左衛門	明珍吉蔵
下馬場西側	筒井長右衛門	竹内源次
同番組	本町上魚屋町南側	御大工方
清水仁太夫	山本但右衛門	式人扶持式拾六表
江見藤兵衛	八木町下毛丁南側	荒井善四郎
右同断	福富利兵衛	右同断
毛人半扶持式拾表	岩瀬松助	毛人半扶持式拾表
小細工方		

御台所	矢嶋直右衛門	小頭田森喜七	石田伴七	植村新八	中沢小平次	田中定七	岡村清六	早川市平	七軒町東側中程	依田林太夫	中嶋弥七	中沢小平次	伊七	宇七	惣七	熊川太右衛門	柿矢根方	善七	周助	良七		
御賄役	三人扶持	小頭中嶋嘉七															伊六	貞助	伊六	柿矢根方	善七	周助
御左官方	御左官方	永田久次郎	文藏	扶持拾武表	木挽方	田結庄町上丁東側	山本次郎兵衛	折平	右同断	右同断	小御料所町称名寺下隣	森谷立助	七軒町	武内宇太夫	伊兵衛	御六尺	武人半扶持拾五俵	右同断	右同断	木挽方	畠方	

二 仙石氏の藩政

右同断

宗鏡寺町
六 藏

勘助
与七

一八
佐七

銀藏

御小使
江戸増壹侯
一統武人扶持八侯

宗鏡寺町
又次

てら町
甚助

うら町
喜八

出町
勇七

直八
善八

七間町
伊助

鍛冶屋村
磯七

七間町
豊八

御長柄組

三木村
治八

桐野村
喜八

小御料所町東側
元七

良八

御草履取

式人扶持九侯御籠持

式人扶持拾式侯
御道具持

川原町
源藏
川原町
長五郎

魚屋町
貞八
良助

川原町
直八
川原町
勇藏

田結庄町
義助
儀七

新兵衛
幸太夫

福見村
忠三郎
藤兵衛

田結庄町 小八 依田藤兵衛

御旗小頭
出町誓願寺へ上ル入口 本知百五拾石
小御料所町東側 福田治右衛門 金沢弥次兵衛

柳川藤左衛門

御仲間小頭
小人町入口東側 相原兵右衛門

新屋鋪 宮崎藤内

博勞町上東側 橋口角兵衛 大沢利右衛門

中沢嘉太夫 滝川喜平次

御長柄小頭
萩原源六 永井喜六

御作事小頭
安田与五右衛門 早田源右衛門

御作事小頭
北村勇右衛門 大村左助

御作事小頭
七軒町土橋内 西沢林碩

高橋弥惣
新町口南側

鈴木弥作
田中権兵衛

御内所小頭
小林奎太郎 岡村左市

御内所小頭
材料町 常田弥市

御茶道並御坊主
八石三人扶持 新町
小役人格
右同断 宗鏡寺町東側 中村如筑

御小納戸手伝御坊主
中村与斎

二 仙石氏の藩政

橋本卜斎 小川久悦
依田清甫 小林祐甫
神田少悦 中村勇碩
中村祐古 橋本卜斎

御坊主小頭

原田清賀 舟津三勇
梅垣柳甫 西沢林悦

大納戸手伝御坊主

梅垣柳甫

惣御坊主方

足立龍斎

依田林賀

村田真悦

中嶋智專

小池専佐

北村盛巴

西 宗甫

舟津林斎

御勘定奉行

小川久悦 小林祐甫
神田少悦 中村勇碩
中村祐古 橋本卜斎

御勘定下役

赤沢市太夫 岩田五郎作
黒川新兵衛 岩田平太夫
酒井兵太夫 岡木吉左衛門
長谷川喜兵衛 大屋嘉兵衛

依田又次

元方御勘定奉行	高橋伊太夫 和田又兵衛
御既別當	惠崎案右衛門 宇野民次郎
竹村次郎右衛門	大友十郎右衛門
本間甚右衛門	新橋口
御金方	大友十郎右衛門
西川平学	高橋権之丞
内藤五郎兵衛	出町 大さか 浅沼郡次
龟井六郎兵衛	川原町福寿院前 保田勇七
同手伝下役	宮沢宗八
御藏奉行	同御口御馬屋
小坂小太夫	同御仲間
堤 小兵衛	西村平八郎家文書
関口角右衛門	云 村割御趣意書 御祈禱參詣心得書
工藤市郎右衛門	西村平八郎家文書
高田十之進	○「」は貼紙によつて訂正してある箇条である。
同下役	當時御藏米知行の内、前々の通地方渡に可被仰付、御 含を以、今般先ツ村割渡被仰付候趣、宝永年中当所江 御所替砌り往古美濃御領知より信州上田御在城中迄の 御例を以、当所先年小出様御拝知中の通り知行所村々
矢崎源蔵	

可被相付處、右御拝知後御中絶の跡故、村分ヶの儀急にハ難被仰付、其御詮義(議)以下同中先ツ御郡々の納に被仰付置候の處、右御所替御一件、莫太の御物入御勝手向御差問の義に付、一旦知行一統扶持方渡に被仰付候故、御蔵米渡に相成、其後知行に被差戻候處、追々の御故障ともにて、終に九拾年余の御中絶に相成、此節に至り候てハ、知行の面々も旧記の残り候迄にて、承り伝もかすかに相成、知行地方渡りにて、上下和合の余風も不相残、年増に士農の間隔り、自然と愛情薄く、万事温厚の取斗にも至りかたく、其上当地の儀ハ、小出様御拝知中々百年余の中絶に候得ハ、其節の知行村分ケ御判物所持にて、当所住居の輩も稀成儀、御郡中におゐては、其節の村方知行地所割、地頭付百姓分ケ等の帳面差出候村々も、近在遠在ともに数少の儀、此上御猶予にて、宝永後百年余の御廢絶にも候てハ、御代々御遺意の處も候者御再興難相成、近年の内何れにも其思召立に候処、去ル子年冬・丑年春、海辺御備の儀、從

公儀段々御嚴重の被仰出の處、當時知行の内半知御借受も有之候に、御蔵米渡にてハ、当御領分北浦の海辺は御備御手配り行届かたき趣とも有之、且御領中御政務におけるハ御家の源姓ハ外とも異にして、頼光公の御実男頼国公御後裔の處、王代御任国の御旧跡故、中古戦国中の御領知に備さらるべく、既に御先々御代水生山長楽寺におゐて、氣多川の古を被為慕御詠の趣に候儀、丹後國も当御領知ハ当国一体の處、王代斎宮明神格別の神武を以、三鬼御放伐、其後頼光公大江山の賊徒御退治も右の前例を被受、人民を被安候御遺跡に付、猶更以公儀御命令の趣を被重候御本意の處におゐても古の御神命に被為隨、丹但の海辺御備の儀、且御政道の趣、永年におしあよはされ候御仁政被絶度厚き御含、數多の儀ともに候得とも、誠の御仁政ハ一旦の御恵と違ひ、当然の處ハ其心付も有之間敷、後年に至り、其以前の趣を顧ミ、其節存当りも可有之處、此度の知行村割に段々深き御含の儀ともにて、右被仰出候の處、

海辺御備御郡中の御仁政とともに、永久御大切の儀に付、
知行の輩其地理に応し、村里の族其知行に叶ひ、風儀
貞正に一統繁榮のため、此度ハ各向寄の於神社仏閣、
被逐祈願、被任神命神闇を以、知行村割所被相付候処、
合給の村々ハ勿論、一村の處にても知行付手当方両様

の御百姓分に付、猶又神闇を以の御取斗、其人々天性

自然の處に因て、其知行の家々に応し、人心の向ふ所、
父母に孝行に、兄弟睦敷、各家職を励ミ、正直を本と
する意に至り、一統繁榮いたすへき御趣意を以、向寄

の於神社仏閣人別分ケの闇神前に被備、右御旨趣の御
祈願并五穀成就の御祈祷、二夜三日被仰付候、村方惣

代として、其村々庄屋組合の百姓代壱人其節參詣、猶

又村々一統心中の祈願も申達、右神前の闇其社家別當
より是を受取、其村々江配当、一統頂戴の上、右神闇
に当り候ハ、則天道神仏の命せらるる所に候得は、信
心を以其所を永々共に大切に相心得、外をうらやむ遺
念なく、元和以来の御治世は王代より稀成儀、全日光

御神徳を以、津々浦々迄も安穩に暮し候所を難有恐感
仕、猶又天下泰平五穀成就の儀を朝暮相祈る志におゐ
てハ、自然と天道神仏の加護に因て、作方豊饒、其家
の繁榮長久、此所に可有之候事

午五月

二七 村割三付、村々江被仰出候御書付扣

西村平八郎家文書

(表紙)

寛政十年

村割ニ付村々江被仰出候

御書付扣

午九月

口小野村

御郡中

庄屋共江

一今般御家中村割知行被仰付候付而、右知行付村々之
儀者、去ル五月被仰出候御書付之趣、猶又村役人百

姓共、厚申合、得斗熟談会得いたし、小百姓無高之

午 九月

者ニ至迄、常々厚く申聞、御趣意の処、得斗呑込候
之様申談候儀、可為肝要候事

一 御領主之儀を、是迄下々ニ而ハ御地頭と称候村里も

有之候、右ハ全く古俗之申誤候間、向後御領主と称

し可申事

一 御家中村割知行之面々、於其場所ニ向後千石以上ハ

地頭、其以下ハ所頭と唱可申事

一 右村割御趣意、先達而御書付ヲ以被仰出候趣之儀、

右ニ付而は、知行付手当方百姓之内、地頭所頭願之

存念ヲ以、追々格式等申付候處茂相含、追年士農一

体之古風ニ茂立戻り可申ニ付而者、右を支配之庄屋

共ニ候得は、御役所向へ罷出候節共ニ、向後脇差を

帶罷出可申候、右ニ付御藏入而已之村々庄屋共も同

様脇差ヲ帶可申候事

一 右之外知行付村々百姓心得筋被仰出茂有之候得とも、

追々大庄屋共江申談、可申渡候事

二 仙石氏の藩政

御城付

御供所付

一 御城付ヲ一トシ、御供所付ヲ二トシ、次第致候事

一 火災之節、心得大庄屋江可申渡候事

一 来 御帰城之節ハ初而之儀ニ付、一同御目見可被仰

付、其後ハ御城付下郷カ老人、山之中カ老人、御供

所付三ヶ村之内惣代ニ而御目見可被仰付御沙汰候事

一 御趣意書、近日相渡可申候、右之趣昨日口達ニ而申

聞候得共、尚又可致承知候、以上

宇野孫太夫

九月十八日

西川孫右衛門

御城付九ヶ村庄屋共江

御供所付村々庄屋共江

村々手当方 百姓

一此度罷出候残之者、追々農業之手透之節、地頭所頭江罷越相伺可申事

一庄屋相替候節ハ、地頭所頭江罷出可申達候、其外申達候儀、追々可申談候事

一村割御趣意書、御文面直し之処有之候処、相直し候上、追而下ヶ可遣事

一於一宮、以來年々御祈禱被仰付候事

一村割御一件村々是迄入用之義可有之候、是等之儀ハ追而大庄屋へ可申談事

一御祈禱御趣意書、村々江中渡書、右両帳相渡被申候、右口達手扣之趣ニ候、両組村割之村々、此間申聞候得共、尚又可致承知候、以上

西川孫右衛門

御郡中寺社御備金

一金百疋宛但州九拾四ヶ寺

一同式百疋美含郡円通寺

一同百疋宛丹州作州拾九ヶ寺

一同断他領七拾式ヶ寺

九月

下郷兩組

村割之村々庄屋江

二六 寛政十年村割一件二付、村々江

西村平八郎家文書

為御心付被成下候石数

○原文は一段に書いてある。

一米六拾石

内

一米五斗五升 褐狭村

一同五斗武升 口小野村

一同六斗五升 森尾村

一同三斗七升 三宅村

一同五斗壱升 市場村

一同五斗四升 奥野村

メ六石五斗

一米五斗武升 立山村

一同三斗五升 田多地村

一同四斗壱升 安良村

一同壠石七升 上鉢山村

一同三斗四升 下鉢山村

一同六斗七升 香庄村

但州 修驗拾式人

丹州作州 同断六人

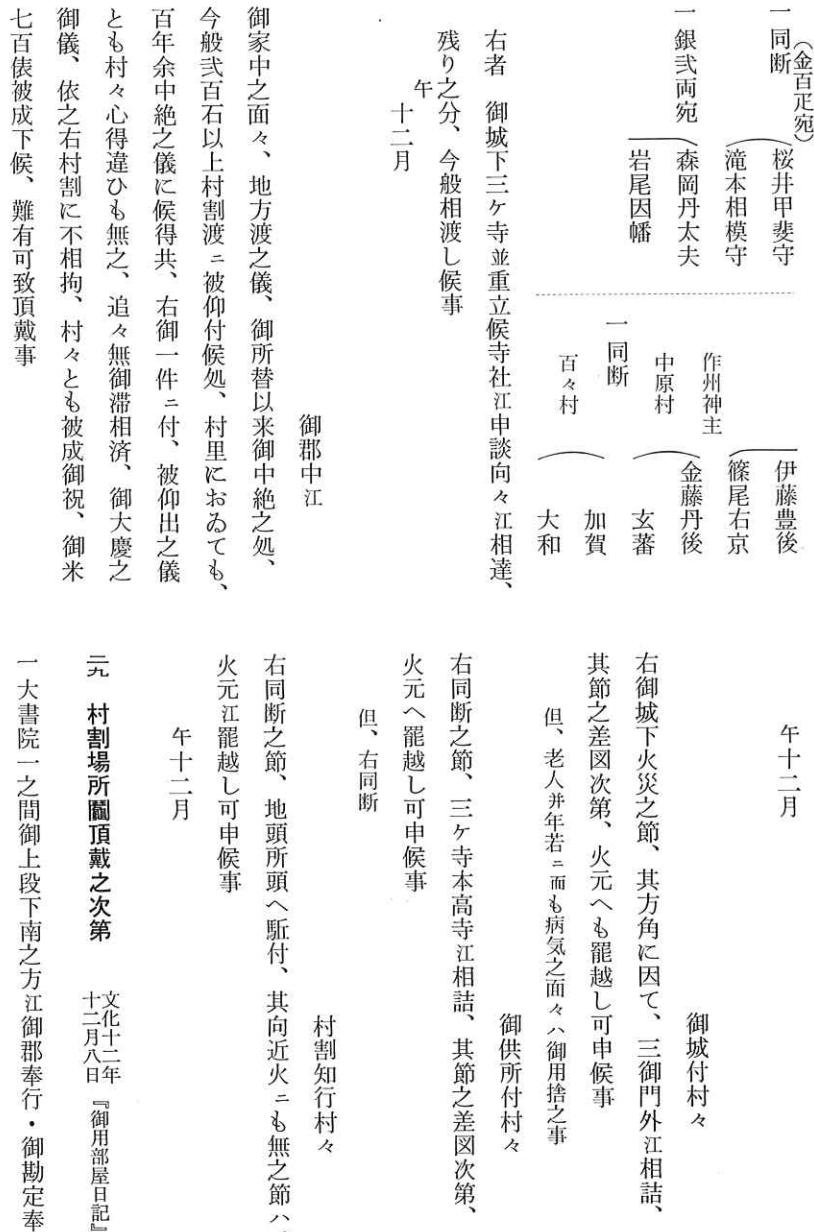
丹州 丹州同断

丹州 丹州同断

丹州 丹州同断

丹州 丹州同断

丹州 丹州同断



行・御目付・御郡目付老人宛出席、少し隔二之御間
御敷居際ニ免定頭不残、平勘定式人、御帳面扣籠在

候事

一同所南之方御廊下江地方役老人御代官共籠在候事

一同所一之御間御椽類ニ御用番着座之事

但、御用意宜御目付申達候上籠出ル、

一御用番着座と二間程隔、西の方ニ御用入着座、

但、登・貢此所ヘ扣籠在、頂戴相済、直ニ退座、

一同所二之御間ニ多宮・左兵衛扣籠在候事

但、頂戴直ニ退座、

一御三方三飾ニ村割場所書付載之、御上段ニ据置、

一闇頂戴之砌々、闇頂戴之当人披封、免定頭江差出、

懸り之御役人取斗候事

但、頂戴之もの不残退座之上、御目付相済候段申達、

御用番退座、

御用番退座、

大森 登

山村 貢

一享保七寅迄三ツ成被成下、無足以下新歩引被成下、
米以下新歩引増、

米取者古歩引被下、

一正徳八卯年迄享保六丑年迄半知ニナル、無足・小切
下、但、江戸詰面々四ツ成ニメ被成下、無足・小切
米取者古歩引被下、

三 宝永五年～文政四年上米推移

『出石江御所替之節書類』 出石神社蔵

本間多宮
仙石左兵衛

右村割闇頂戴仕、難有旨、一切御用部屋江籠出、御
礼申達、御聽ニ達ス、

一右之面々、村割場所書付、御郡奉行差出候付、認達
御聽、

一同九辰迄半知ニナル、無足以下新歩引増、
一宝暦二申年迄御家中小切米まで、上ヶ米高合凡千石
程、

此間御々

一明和九辰二月、江戸御屋敷御類焼、御侍已上上ヶ米
凡千石斗、但、毎暮御心付米并塩被下、万端相改、

一小頭已下御切米三斗五升表ニ成、

一大慈院様御入部一ヶ年上ヶ米御用捨、

一寛政五年三月、浦手御備ニ付、一統被下銀有之、

一同九年、上ヶ米御用捨、

一同十年、武百石已上村割被成下、

一文化四年、浦手ニ付被下銀、

一同七年、三ヶ年諸引物御用捨、

一寛政十年、部屋住勤五割四歩引被仰付、

一明和九年御類焼後御足輕小頭十五表高(度)以下同、御足輕三斗

五升表九表、一組十二人ニ成ル、

小頭已下、三斗五升表也、

一寛政十年、御足輕毫表□付、

一同年、御徒士已下御普代の唱ニ被仰付、

一浦手衆迄御寺組正二十人組御足輕小頭外ニ小頭代一

人□被仰付、

一文政四年、諸引物御用捨、上ヶ米割合別紙、凡武
千八百石ほど 塩被成下、

三 宝永八年上米率

『出石江御所替之節書類』

出石神社藏

但、歩引之義(儀)當時と者少々相違有之候へとも為見合記置、

千七百石迄百七拾石迄

武ツ成

百五拾石迄百三十石迄

武ツ武歩

百石

武ツ三步

百拾石迄五斗迄百拾石迄

武ツ三步五厘

百石

武ツ五步

八拾石迄六拾石迄

三ツ

隠居五百石	壱ツ六歩	十五人ふち	二わり六歩五厘
幼年百石	武ツ武歩五厘	十人ふち	一わり三歩五厘
百表 <small>(俵以下同)</small> 七人ふち	三割武歩引	八人ふち	五歩
七十表六人ふち	二わり九歩引	同二十人ふち	三わり八歩
六十表六人ふち五拾表六人ふち	二わり七歩引	隱居二十人ふち	三わり八歩
拾四石四人ふち	二わり六歩五厘	同十五人ふち	四(わ)り八歩
拾五石三人ふち三拾表六人ふち	二わり四歩引	同十人ふち	三わり六歩五厘
十四石三人ふち拾三石三人ふち	二わり武歩引	隠居十人ふち	二わり三歩五厘
三十表五人ふち	一わり九歩六厘	拾兩十人十兩八人	二わり四歩
拾四石二人ふち十一石四人ふち	一わり七步六厘	九歩八厘	九歩五厘
拾武石三人ふち	一わり五步六厘	八歩武厘	九歩五厘
三十五表三人ふち拾一石三人ふち	一わり三步五厘	三わり壱歩	二わり四歩
拾武石二人ふち	一わり三步五厘	二わり二歩	二わり七步
拾石三人ふち三十表武人ふち	一わり一步引	三枚六人ふち	三枚六人ふち
九石已下七石迄	五歩	壱枚四人ふち	壱枚四人ふち
二十五人ふち	三わり	七兩四人ふち	七兩四人ふち
武十人ふち	二わり八歩	三枚十人ふち	三枚十人ふち

十三石三人	老人	拾石四人	三人
三十表四人	六人	十一石三人	三人
十石三人	三人	三十表三人	三人
十一石三人	十三人	拾石二人	老人
九石四人	老人	九石三人	十一人
八石三人	老人	九石二人	六十四人
八石二人	老人	七石三人	老人
七石二人	武人	二十二表三人	老人
合六千四百八十表六步六厘	年中御切米	石ニメ武千五百二十七石八斗四升老人合	扶持方合八百八十老人ふち
石ニメ武千五百二十七石八斗四升老人合	内拾壺兩拾三匁四分新上り	石ニメ 十一石武斗武升七合	二口合
石ニメ千五百八十五石八斗	石ニメ	石ニメ	扶持方合八百八十老人ふち
二口合	石ニメ	石ニメ	石ニメ
四千百拾三石六斗四升七合	石ニメ	石ニメ	石ニメ
上りメ 武千六百廿壺表九分	石ニメ	石ニメ	石ニメ
石ニメ千武拾武石五斗四升老人合	石ニメ	石ニメ	石ニメ
内千武百八十表三分	新上り	内千武百八十表三分	新上り
合六百八十二石八斗	年中御渡方	合六百八十二石八斗	年中御渡方

捨壺人	捨三人	(内訣六〇人禪宗、五四人日蓮宗、五三人淨土宗、一九人
四儀武斗	五儀武斗	
捨人	捨武人	
四儀壺斗	五儀	
一向宗、二人真言宗)	(内訣六〇人禪宗、五四人日蓮宗、五三人淨土宗、一九人	

九人	七人	五人	三人
三儀三斗	三儀	武儀	老儀老斗
八人	六人	四人	八人
三儀老斗	武儀武斗	老儀	三儀三斗

五日 十日 十五日 廿日 廿六日

会所式日

二日 七日 十三日
町方内寄合日
三日 十八日 廿七日
十九日 廿五日

三四 江戸詰の人数

『但州叢書』山之井七 出石神社藏

江戸侍中組付格以上并妻子共
子年百人減
百八拾八人内
百四人男 八拾四人女

江戸侍中組付格以上并妻子共

百拾九人內
子年百八十一人減
都合八百拾九人內
七十八人男 四十一人女 (内訣省略)
(内訣二五八人禪宗、一八〇人日蓮宗、二三三人淨土宗、一

御奥様
御姫様
御部屋様
女中

百九人內	六十六人御直衆	三十九人又半女
(内訣二〇人禪宗、三四人日蓮宗、三六人淨土宗、一二人		
一向宗、三人真言宗、四人天台宗)		

江戸組小頭足輕掃除坊主大工
組付外歩行并小役人妻子共
三十八人減
八拾三人内 八十六人男 七十一人女

江戸組小頭足輕掃除坊主大工
辻番門番大和田山守中間并妻子共
八十六人男 七十七人女（内訛省略）
百六拾三人内
子年貳拾四人増
武百四十人内 武百十九人男 貳拾壹人女（内訛省略）

侍中召遣五人組之外

百拾九人內 七十八人男 四十一人女 (內訛省略)
子年百八十二人減
都合八百拾九人內 四百八拾七人男 三百三十三人女

一一人一向宗、二〇人真言宗

右之通、江戸御屋敷中宗旨相改面々、手形証文遂吟
味、請置申候、以上

宝永六年己丑年九月朔日

小倉武兵衛

荒木頼母殿

今井助左衛門殿

磯野源太夫殿

酒勾清兵衛殿

原市郎右衛門殿

三 公儀軍役

『但州叢書』山之井七 出石神社藏

千石 武拾三人 鐘二弓一張鐵砲一

千百石 戀拾五人 鐮三本 其外每々之通、

千式百石 武拾七人 右同断、

千三百石 武拾九人 右同断、

千四百石 三十人 右同断、

千五百石 三十人 右同断、

千六百石 三十五人

千七百石 三拾七人 鐮四本弓一張 鐵砲武

千八百石 三拾九人 右同断、

千九百石 四拾壱人 右同断、

五千石 四拾三人 鐮五本 其外每々之通、

三千石 馬上武騎 鐵砲三 弓武 鐮五本

四千石 馬上五騎 鐵砲五 弓武 旗式本 鐮拾本

五千石 鐵砲十 弓五 其外每々之通、

六千石 右同断、

七千石 馬上六騎 鐵砲十五 其外每々之通、

八千石 馬上七騎 鐮武拾本 弓拾五張 其外每々之通、

九千石 馬上八騎 其外每々之通、

老万石 馬上拾騎 旗三本 鐮三十本 鐵砲十五弓十張

武万石 馬上武拾騎 旗五本 鐵砲五十弓廿張 鐮五十本

三万石 馬上三拾五騎 弓廿張 鐵砲八拾 旗五本

長柄七十本

四万石 馬上四拾五騎 鐵砲百廿 弓卅張 旗八本

長柄七十本

二 仙石氏の藩政

合式拾七人

（鐵砲三人・鎗八人内長柄五・弓壺人・手明十一人・具持三人・甲立一人・差物壺人・挟箱壺人・荷付壺人・

千石

（足壺人・甲立一人・差物壺人・挟箱壺人・荷付壺人・

合四拾八人

（鐵砲十人・長柄五人・鎗三人・弓三人・手明十八人・荷付壺人・

武千石

（足壺人・甲立壺人・差物壺人・挟箱式人・荷付壺人・馬取四人・沓箱式人・騎馬二人・又者十八人・

合七拾式人

毛 御家御旗御馬印

『但州叢書』山之井七 出石神社蔵

御家御旗御馬印

一旗拾本 紺地永楽三田町

一鉄砲 百挺

一弓 三拾張

一長柄

九拾本

一大馬駿
（紺ノ永樂、五田町長廿九尺五寸・巾七尺三寸半ノ練白地、

一小馬印 金ノ御幣出嶋ノ箕毛

一御指物 紺ノ四半白金ニ而無字

一武頭以上差物面々心次第、

一使番一田町昇紺白段々之筋

一士番差物練切裂吹貫金甲頭象馬鎧黒鳥毛

一歩行者 貝足黒塗御紋金ノ永楽、金ノ笠ニ御紋黒ク

付、

一麾者 黒塗御紋金ノ永楽、袖細浅キモノ、

一脚 赤塗前ニ朱ノ無字、袖細、

一長柄之者 黒塗前ニ朱ノ無字、袖細、
（鉄砲ノモノ一本、シナイ同断、紺地緒御紋永楽

但、差物なし

三 御渡方御定法

（表紙）

明和三年丙戌 五月同濟

御渡方御定法

一新知被成下候節、何月ニ而も其年中被成下、御扶持

切米相渡員數右之内ニ而立用ニ相成候事

一被召出候面々、御宛行年中被成下、御扶持方者、其日乃被成下候事

一知行無足小切米御加恩被成下候節、何月ニ而も年中

被成下候、御扶持方ハ其日乃被成下候事

一無足之面々、勤役中為御足高、知行被成下候節、何月ニ而も年中被成下、御扶持切米相渡候、員數右之内ニ而立用ニ相成候、御役御免之節者、月割ニ相成候事

一勤役中御足高被成下候節、年中被成下候、御扶持方

八、其日乃被成下候、御役御免ニ而揚候節、御切米月割之事

一大扶持之面々、御扶持切米御直被成下候節、年中被成下、御扶持方當時之員數差引、過扶持有之候得者、

日勘定を以、御切米之内ニ而立用ニ相成候事

一家督被仰付候節、七月以前ハ親御宛行半年分、子之御宛行半年分被成下、七月以後者親宛行不殘被成下、

家督分翌年乃被成下候事

付其子部屋住ニ而御奉公相勤居候得者、知行無足共部屋住之御宛行月割ニ相成、尤御扶持方ハ其日迄被成下候事

但、明和六丑六月大塚甚太夫死失跡式、同八月被仰付候處ニ、御定法相分り兼候儀在之候ニ付相伺候處ニ、已來死去之月相用候様被仰付、依之甚太夫分御物成半年

分被成下、せか九次郎作江被仰付候、跡式百石七月乃半年分相渡候様相極ル、

右之通丑八月十二日工藤仁兵衛殿被仰聞、

一大扶持之面々、家督扶持切米取并大扶持ニ被仰付候節、七月以前ニ候得者、親分御扶持方半年分被成下、子ノ御宛行半年分被成下候、七月以後ニ候得者、親分其年中被成下、家督分ハ翌年乃被成下候事

但、忌中扶持引上納不及候事

一知行無足共家督跡式幼年ニ而当分御扶持方斗被成下候節、七月以前ハ親分半年分被成下、子之分御扶持

方七月分方相渡、七月以後候得者、親分其年中被成

下、子之分ハ翌年々相渡候事

一定江戸無足之面々、新知并勤役中為御足高知行ニ被仰付候節、年中被成下候ニ付、知行扶持並之通、其

年中被成下候事

一定江戸知行之面々、御供ニ而出石江相詰候節、知行

扶持江戸並之通、被成下候事

一定江戸知行之面々、家督跡式御扶持切米被仰付候節、

七月以前ハ親分知行扶持共半年分被成下、子之分御

扶持切米半年分被成下、七月以後ハ親之分年中知行扶持共被成下、子之分翌年々被成下候事

一部屋住ニ而御奉公相勤居候面々、病氣ニ而難相勤、依願御宛行差上候節、御渡方過不足不及差引、相渡候分被下切ニ相成候事

一右同断病死之節、渡不足有之候ハ、其月迄之分相渡候、渡過有之候ハ、不及差引被下切ニ相成候事一永之御暇被成下并欠落致候者、御宛行御取上之者、

跡断絶之者右同断、

一小役人以下病氣其外無拋品ニ而御宛行依願差上候者、残在之候得者、月割ニ而被成下候、渡過有之候而も被下捨リ相成候事

一其身不行跡ニ付御宛行被召放、新家名御立被下候節、

御宛行双方月割之事

但、被召放候御宛行其月迄被下、新規之分其翌月より相

渡候事

一品有之御宛行相減候節、月割之事

一御徒士組被召抱之節、御切米月割之事

一知行無足共部屋住ニ而江戸詰之節、親相果於江戸跡式被仰付候節、一つ成歩引御渡方部屋住御宛行之一ツ成歩引ハ出石発足之内々跡式被成下前月迄相渡、跡式分一つ成歩引者、被仰付候月々被成下候事

一一つ成歩引相渡候以後江戸詰御免ニ候得者、半分被成下、半分ハ五年賦返上、但、病氣其外無拋子細有之、依願江戸詰御免ニ候得者、不残五年賦返上之事

一江戸詰之面々、一ツ成歩引発足前一ヶ年分相渡、一

渡候事

ヶ年余相詰候得者、詰越之分月割ニ而被成下、江戸詰十二ヶ月ニメ不足ニ而罷帰候而も、差引不及進上候事

但、江戸江発足之日迄罷帰迄一ヶ月ニメ、相残分ハ何日ニ而も日割ニ相渡候事

一定江戸被仰付候得者、並ニ五歩増之物成切米被成下候事

一江戸詰ニ付、一ツ成歩引不被下候事

一江戸詰ニ而定府被仰付候節、一ツ成新歩引者被仰付候月迄被成下、五歩増之分ハ其翌月迄被成下候事

一御年寄江戸詰之節、御宛行之不依高下ニ、八百石之一ツ成被下候事

但、京大坂其外他国へ罷越候節ハ三百五拾石之一ツ成相

渡候事

一御用人江戸詰之節ハ、御宛行之不依高下ニ、四百石之一ツ成被成下候事

但、京大坂其外他国へ罷越候節ハ武百五拾石之一ツ成相

一御書役江戸詰之節、百五拾石以上者、百五拾石之一ツ成被成下、百五拾石以下ハ御宛行并一ツ成共百五拾石高ニ被成下候事

一御目付・御近習番・御馬廻り・御小納戸御小姓江戸詰之節、百五拾石以上ハ百五拾石之一ツ成、其以下ハ持高之一ツ成被成下候事

一年中度々京大坂往来并不時出府之面々、一ツ成歩引日割ニ而被成下候事

一江戸詰之節、御加恩并御役高等被成下候面々、一ツ成歩引、右被仰付候月迄増之分被成下候事

一御役料ハ被仰付候節迄月割ニ而被成下、御役御免ニ而揚り候節も同断、

一勤役中御心付銀被成下候節、日割ニ而被成下候、御役御免ニ而揚り候節同断、

一付人被成下候節、扶持給金共同断、

一於江戸御雇之者、御心付銀御渡方六ツ割ニメ、被仰

付候節より差立、揚候節も同断差立切ニ仕候事

一江戸詰ニ付被成下候人并小役人以下、食焚給金出

石発足前ニ渡切、御扶持取ハ召抱候日より発足之朝迄

割府ニ而相渡、於江戸着之日より相渡候事

但、帰年ハ江戸発足之朝迄扶持方於江戸相渡、給金ハ罷

帰候上壱ヶ年之余分日割ニ而相渡候事

一定府之面々、出石勝手ニ被仰付候節、五步増之分、

出石着之日迄日割ニ而被成下候事

一御徒士食焚江戸詰之節ハ、給金弐歩増、扶持方半扶

持相増候事

但、帰年ハ増金之分、日割ニ而相渡候事

一江戸詰支度銀迎銀御渡方三月迄発足之面々、六ツ割

之四ツ分、発足前ニ相渡、残二ツ分ハ十一月十二月

兩度ニ相渡、四月より未発足之面々、六ツ割之四ツ分

相渡、残ル壱ツ分十二月渡、右四ツ分より以下相残候

節、発足之ものへ不残渡切之事

二 仙石氏の藩政

合渡切之事

但、分厘斗相残候分ハ不相渡、仕切之節相渡し候事

一江戸出石共六ツ割銀渡先切手并引物等有之、拾弐匁

以下相残候分ハ、十二月仕切渡之事

一米大豆渡過ニ相成候節、其年之直段（値以下同）を以、翌年致銀

引候事

一家督跡式幼年ニ而当分御扶持方斗被成下候面々、九

人扶持以下者年賦一ヶ年ニ弐斗ツ、於御藏引落、其

時之直段を以上納之事

但、拾人扶持以上者、本式上納之事

付リ幼年扶持者無引ニ而、拾人扶持以上割合銀渡り正米渡

相分候、右之面々、年賦高少銀渡之内ニ而定式之通上納相

成面々、是迄之通上納年賦多定式之上納不相成面々ハ、弐

拾人扶持名拾五人扶持迄壱ヶ年壱石ツ、拾四人扶持名拾人

扶持迄四斗ツ、銀渡り之内ニ而上納、九人扶持以下は壱ヶ

年弐斗ツ、於御藏引落、其時々直段を以上納、知行本高ニ

相直り候節、殘本式引候事、尤拾人扶持以上取置料并人參

代押借上納ハ、外并之通、弐年賦上納候事

一小役人御徒士頭相果候跡、幼年ニ而御扶持方斗被成
下候節、年賦渡過御宛行相直候迄ハ引不申候事

一右同断、先切手渡定日

二月十日

一右同断、餅米割府渡定日

十一月廿八日

一出石御家中末々迄銀渡定日

三月朔日 五月朔日 七月朔日

九月朔日 十一月朔日

十二月十六日

但、定日請取後候得ハ重而之定日相渡候事、右通ニ付ケ

相渡候事

一知行八拾石以下無足小切米夏大豆五月六月限、并足
米小切米暮大豆十一月限請取後候へは、銀渡江相廻
候事

一江戸御供支度銀并一ツ成歩引渡定日

四月廿二日

但、右渡残り出石渡願發足前ニ員數書付取置候事

一右同断迎銀出石渡定日

四月十五日

一大扶持之面々、春渡大豆二月三月限、夏大豆暮大豆
小切米ニ准受取後ハ銀渡相廻候事
一知行無足小切米御渡方通渡定日

一右同断、一つ成歩引詰越渡定日

二月二日 但、元帳名前江印形取相渡候事
二月二日 但、元帳名前江印形取相渡候事
七月十二日

小切米被召出之面々、家内持之分同五俵

(中略)

同 独身面々

同三俵

小頭以下御渡方

出石大扶持正米渡定

無引 武拾人扶持 内拾人扶持 正米渡

歩引武拾人扶持 拾四人四步 内八人扶持 右同断

無引 拾五人扶持 拾五人扶持 内八人扶持 右同断

無引 拾五人扶持 拾五人扶持 内六人半扶持 右同断

但、歩引拾人扶持以下不残正米渡 内六人半扶持 右同断

但、歩引拾人扶持以下不残正米渡 内六人半扶持 右同断

右之外、定江戸大扶持之分、半分銀渡候事

御礼錢上納定

一新知御加增并被召出候面々

老貴文

一継目御礼百五拾石以上

老貴文

一右以下

五百文

一無足

一同四拾俵以下

三百文

一武拾人扶持 五百文

一拾五人扶持以下 三百文

但、四拾俵取無足二准、三百文
但、無足二准、五百文

儘相渡候事

一御中間江戸詰年は御給金武歩増、帰年ハ老歩増之事

一父予入代り被召抱候者、御扶持切米日割勘定を以返上申付候事

一致欠落候者、御扶持切米日割勘定を以返上申付候事
一父予入代り被召抱候者、御扶持切米出入無之節ハ其
一但、御扶持方ハ詰中半扶持相増候事

一御馬取食焚江戸詰年斗給金武歩、扶持方半扶持、相
增候事

一御切米御金給御増被成下候節、年中被成下候御扶持
方ハ、其日夕被成下候事

一新ニ被召抱候者ハ御扶持切米日割ニ而被成下候事

一永之御暇被成下候節、御切米御給金とも日割勘定を
以相渡、代被召抱候者も同断、

但、御暇之者御扶持方受取過有之候得者、返上申付、代
り之者、御扶持方其日夕相渡候事

一定府御徒士御坊主食焚御參府年者不差立、御帰城年

者差立候事

遠使御渡方定

六拾
外

五拾九

三拾九

右里數三拾里余二相成傾得者相湏傾事

拾
五
冬

但、京都若州立帰り并出郷御貸人、其外近辺江籠越候御

渡方

三拾九

武拾五

卷之六

御規□□相極□分相渡、

武拾三

武拾忽

御足輕類取置料

七石
拾壹石
詰年
國年

割合左之通

、御渡方ハ九石取御詰年御国年二ヶ年分御宛行
之通、過不足無之様相渡可申旨、被仰渡候ニ付、

候節八九石二被仰付候事

以来御徒士組七石又人扶持高ニ被仰付、江戸詰之節

安永四末年壬十一月九日

明和四亥七月十八日

但、小頭奥右衛門京都へ罷越候二付、

小頭近辺江罷越候節

渡之分

或者品有之、御渡方取切之者翌年相

九年石取

九石但、内六斗ハ 同詰年
歩引増

右七石四斗

右差引拾八石之内六斗ハ古歩引体ニ而上リ切相成、
御渡方帳ハ詰年國年之無差別七石ヲ出置、残三石四

斗歩引帳ニ而相渡、尤帰年詰越渡リハ並九石取之歩

引六斗分分日割ニ而相渡候事

一四拾武又三分四厘

養父郡四割出し

是者古來生野御代官山川庄兵衛殿御支配之時、綿

運上上ルニ四割外ヲ取、御代官所務之由、其例ニ
而出ス、

四 氣多・養父郡猶師之覺

『但州叢書』山之井 一之三 出石神社藏

3 藩領大概

三 養父郡茶桑四割出し之覺

『但州叢書』山之井 一之三 出石神社藏

一小物成茶一株者三尺四方を云、三合宛也、茶下地ハ
引也、

四 但州八郡知行高郡分ケ

『但州叢書』山之井 一之三 出石神社藏

一同桑之定
一 中 上桑
下 桑
六匁 但し、あじか四貫匁之桑
を考本とメ、上木数は何本利
に而も定ル、上桑ハ目利本
之定、

一 高武万三百八拾八石五斗武升壹合

朝来郡

一 氣多郡 弐人地下 壱人日置 三人多田谷

三人府市場

七人中之郷

四人引野

五人敷市場

四人網場

六人朝倉

拾壹人坂本

三人宿南

三人淺倉

五人赤崎

五人淺間・宿南・伊佐

右兩郡ハ六拾三人内

四拾三人養父

氣多

二 仙石氏の藩政

一 高武万六百七拾五石武斗七升五合	養父郡	一千五百石	養父郡土田南方り	小出修理
一 高七千九百武拾六石七斗三升五合	二方郡	一千石	氣多郡山本三方り	小出助四郎
一 高六千七百石	七味郡	一七百石	同郡八代三り 西北方	杉原平左衛門
一 高壹万七千五百四拾九石壹斗七升七合	氣多郡	一三拾五石	栗賀社領	
一 高壹万九千九百九拾九石三斗八升九合	城崎郡	一三拾石	真言宗	
一 高武万四千七百三拾五石九斗七升五合	出石郡	一拾五石	妙見帝釈寺	
メ 拾武万九千六拾九石七斗五升七合			禪宗	黒川大明寺
右内				
一 三万武千六百九拾壹石六斗五升七合	御藏入			
一 九万六千三百七拾八石壹斗	給所			
此訛				
一 四万八千石	出石領			
一 三万五千石 豊岡領三り 城崎・二方・氣多・養父の内 西北方	京極土肥之助			
一 六千六百石 七味郡村岡拾七 一武千石 出石郡倉見南方 一千五百石 養父郡大藪三り	山名因幡守 下郷			
外	三千七百九拾八石七斗五升八合			
一 高合壹万九千七百拾壹石三斗四升七合	新發見取り			
一 売万千九百五拾三石壹升武合	改出			
一 七千七百五拾七石六斗三升五合				
一 村數八拾壹ヶ村 免狀出候村數也、				
一人數壹万五千八十六人内 (七千七百六拾五人男)				

四 御所替之覺相渡書付

『但州叢書』山之井 二之三 出石神社蔵

一 高合壹万九千七百拾壹石三斗四升七合	御朱印押領高也、出石郡
外	三千七百九拾八石七斗五升八合
一 売万千九百五拾三石壹升武合	下郷
一 七千七百五拾七石六斗三升五合	山中
一 村數八拾壹ヶ村 免狀出候村數也、	
一人數壹万五千八十六人内 (七千七百六拾五人男)	

- 一寺数五拾六ヶ寺
一家數式千式百七拾式軒
- 一社数九拾五ヶ所
一家數式七百式拾六疋
- 一鉄砲数百壠挺内拾壠挺用心筒・拾八挺威筒・
一鉄砲數式拾六挺内三挺用心筒・七挺威筒・
九挺獵師筒
拾六挺獵師筒
- 一家数四千三百九拾五軒
一家數式千三百九拾五軒
- 一牛数八百式拾四疋
一牛數式八百式拾四疋
- 一舟数八艘
一舟數八艘
- 同養父郡
同美舍郡
- 一高合八千四拾七石式斗八升七合
一高合九千九百八拾石三斗五合
- 外
五百四石壠斗三升八合
五百四石壠斗三升八合
- 外
五百四石壠斗三升八合
五百四石壠斗三升八合
- 改出
改出
- 新發見取り
新發見取り
- 六百六拾式石三升
六百六拾式石三升
- 一村数五拾七ヶ村免状出候村也、
一村数七拾三ヶ村免状出候村也、
- 一神社百四拾六斗三升
一人高壠万四千四百六拾三人内
- 一寺数四拾六ヶ所
一寺数四拾六ヶ所
- 一神社百四拾三ヶ所
一神社百四拾三ヶ所
- 一寺数式拾四ヶ寺
一寺数式拾四ヶ寺
- 一馬数四拾五疋
一馬數四拾五疋
- 一船数六艘内式艘渡舟・四艘獵師船
一家數三千八百七拾四軒
- 一舟数七百式拾四艘
一舟數七百式拾四艘

一馬数式拾疋

一牛数千式百三拾疋

同氣多郡

一高壱万式百六拾壱石六升壱合

千四百四拾式石七升式合

改出し

外
四百九拾九石式斗八升式合

新發見取り

一村數四拾五ヶ村免狀出候村數也、

一人高壱万百五拾三人内
(五千百四拾三人男
女)

一神社百拾四ヶ所

一寺數拾八ヶ寺

一鐵砲數式拾六挺内三挺用心筒・七挺威筒・

拾六挺獵箭筒

一家數式千六拾六軒

一馬數六疋

一牛數四百八拾壱疋

一舟數拾七艘

但州四郡御拝領高

合四万八千石外

七千五百五拾九石六斗壱升 改出し
千七百八拾三石七斗七升三合 新發見取り

但、養父郡四ヶ村引替也、詰込高六拾四石壱斗五

升四合ト有之候得共、改出し惣高引替ニ而八石

五斗式升八合過高ニ成候、

合五万七千三百五拾壱石九斗壱升壱合出高也、

右帳面三通り戊六月十五日松平伊賀守様御内山口孫兵

衛・高瀬五左衛門於出石櫻田庄右衛門・波多勘左衛門

請取之也、

御所替之節播州請取之事

一高合壱万八拾八石五升三合外

武升七合戊鴨上時之高へ入
壱万八十石八斗八升成ル

百四拾六石八斗八合ツ・藏屋數年々荒川溝下引物

一村數式拾五ヶ村

一人數七千六百三拾八人内
(四千三人
三千六百三拾五人女)

一社數五拾式ヶ所

一寺數九ヶ寺

一 鉄砲數式拾壺挺御所替之節取上ヶ筒ニ成、只今無之、	五番	長三間・横三間・高壺間半
一 船八艘	六番	大豆六百拾俵積
一 馬數四疋	七番	長八間・横三間・高壺間半
一家數千四百九拾七軒	八番	米貳千三百三拾俵積
一 牛數四百七拾疋	九番	長十間・横三間・高壺間半
一 池數貳百四拾九内 貳百四拾貳ハ水帳ニ載居候由、	十番	同貳千八百五拾俵積
右宝永三年戊七月谷野徳右衛門・水原市左衛門・江見 加右衛門・永井甚兵衛請取	拾壺番	同貳千三百三拾俵積
壺番・貳番	長拾間・横三間・高壺間半	長八間・横三間・高壺間半
長十四間・横三間・高壺間半	右之外	同貳千三百三拾俵積
米貳千七百俵積	右石ニメ千九百四拾四石	同貳千九百四拾俵積
三番	長六間・横三間・高壺間半	同貳千六百四拾俵積
長六間・橫三間・高壺間半	右之外	米貳千九百五拾俵積
同千六百四拾俵積	右石ニメ千九百四拾四石	同貳千六百四拾俵積
四番	長十一間・橫三間・高壺間半	米貳千九百五拾俵積
同貳千九百五拾俵積	右之外	新御藏 宝曆十二壬午年建
一長八間	拾三間	米千八百俵積

一 氣多郡伏御藏

一同加陽御藏

一 山之中

久畠御藏

(表三拾間
裏式拾六間)

(表堀内十五間
裏同式拾式間)

一下郷鉢山村御藏

四 但州四郡船渡三ヶ所

『諸色覚書』

一 養父郡

伊佐村

川幅四十五間 出石札辻ヨリ二リ半 未申ニ当、

一 気多郡

中郷氣多川渡

川幅五十間 出石札辻ヨリ一リ 亥ニ当、

一 美含郡 香住村ノ内矢田川村渡

川幅八十間 出石札辻ヨリ十四リ十五丁、方角亥

ニ当、

罝 御小物成之覚

『諸色覚書』

一 夫米 取米壱石ニ付七升五合也、

但、新発并畠曲尺下免之段免ニ者夫米無之、畠

方も夫米ハ米上納也、(中略)

但、江原村庄屋給無之ニ付、右壱升ハ庄屋給ニ被

成下候由、

一口米 取米壱石ニ付三升

但、段免新発も同様、畠方は口大豆也、(中略)

一 糜藁代 高百石ニ付

(糠五石、但、壱石之代三分、五石之
代壱又五分、藁百束也、但、十五束

(代壱又五分、百束之代六又六分六厘、
之代壱又、百束之代六又六分六毛)

但 (代銀二口合高百石ニ付八又壱分六厘六毛)

(但、大荒ハ除事

一小豆直段ハ大豆直段也、

一大豆直段ハ御小物成直米直段ナリ、

一栗半毛 一蕎麦三分一 稔四分一

一鮎百ニ付

代銀壱匁

一 鮎壱尺ニ付 代銀四匁(美含郡森村ハ五匁ナリ)

一 鮎壱尺ニ付 代銀壱匁

一漁船壱艘ニ付 或ハ七人乗八人乗リ

但、壱株ニ付米三合宛、

但
（壱人ニ付魚油壱升三合宛、壱人ニ付代銀三匁、船も

壱艘ニ付壱人ニ立申候、

一波糸網 壱懸 銀札武匁

一炭金役 壱釜 銀拾匁

一紺役 本役米壱斗武升、半役米六升

但、町方ハ米八石ツヽ、尤増減なしニ而、

一楮役 何程と申法無之、前々迄無増減上納、

一山手・荔畑 伴^共ニ何程と申定無之、前々迄無増減上

一店役 三拾五匁、宝永年中迄御用捨、

一寄鯨 入札致相拠、惣銀高之内、十歩一上納之事

延享二年三月下浜村・鎧村寄鯨有之、其節ハ銀高

壱貫目内ニ而十歩一御用捨、

巽 御領分四郡之免状石高并田畠分ケ之事

〔諸色覚書〕

一桑 三貫目 中 同 六匁

一武貫目 下 同 四匁

但
（桑四貫目ツヽ、壱本ニメ、木数ハ何本ニ而も上納、桑

ハ目利之定ナリ、

免状新発共宝曆四戌年改
高武千九拾石五斗四升四合

出石町分

尤
阿しかわ壱ツを壱本と定候事、阿しか壱ツ之桑之葉
四貫目入候由、上中下綿之直段、桑之葉之直中分を

取て考、直段釣り合能年貫付候事

一茶株者壱株三尺四方也、

同
一高壱万武千武拾九石四斗八升八合

出石下郷

本田毛付田方千五百四拾石余 大積大概
内 本畑 畑方五百五拾石余

但、田畠分ケ年々少々ツヽ、違有之、

二 仙石氏の藩政

同	高九千九百九拾四石八斗八升老合	出石山之中
内	田方壹万七百石余	同
同	田方八千贰百三拾八石余	
内	烟方千三百石余	同
同	烟方千六百八拾石余	
内	烟方贰千八百九拾石余	同
同	烟方贰千八百九拾石余	
内	田方八千九百九拾石余	同
同	田方八千九百九拾石余	
内	烟方八千八百九拾石余	同
同	烟方八千八百石余	
内	田方八千八拾石余	同
同	田方八千八拾石余	
内	烟方贰千贰百石余	同
同	烟方贰千贰百石余	
内	田方四万五千三百八拾八石余	但馬四郡
内	烟方壹万贰千四百九拾石余	美含郡
外拾石五斗九升	丹後熊野郡	新発
一高四千三百六拾八石三斗五升式合		竹野郡
一高武千七百拾三石八斗七合		

外式拾式石四斗七升四合 同
高合七千五百拾式石毫斗五升九合
高三千百六拾五石五斗八升五合
外百六石六升七合 同
惣高合六万八千五百拾式石三斗四合
七 運上鮎鮓鱈魚高
『諸色覺書』

鮎	鮎	鮎
鮎	鮎	鮎
同	鮎	鮎
十六本	鮎	鮎
三十六尺	九千五百	三万五百三十四
三十尺	九十一尺	但、川丁割二而運上出久、而
日置・多田谷	美含郡	養父郡
中郷	氣多郡	

呂 串鮑代左之通相究

『諸色覚書』

一串鮑高三十貝	訓谷	三十五束 丹生地
但、十貝ニ付銀札三枚ツ、	竹野浜	五十束 番村
一同高五十貝	沖浦	外ニ厚紙三束 久斗山村
但、右同直		六束 小坂・養父・中間村
一同高五十貝	鑑	八束 御小物成之内町中地子紺役 (冬立口米共)
但、右同直		『諸色覧書』
一右正貝御用之節ハ可差出候、代上納奉願候、		
一同二十五貝	相谷	一束拾七石五斗四升五合 八木町・鋳物師町
一同十貝	浜安木	一束拾七石三斗壱升九合四勺五撮 田結庄町
一同五十貝	無南垣	一束拾九石六斗四升武合六勺 魚屋町
一同五十貝	坂江	一束拾五石八斗五升壱合武勺 本町
一同五十貝		一束拾武石五斗九升壱合五勺 宵田町
一同五十貝		一束拾五石武升五合 材木町
一同五十貝	下浜	一束拾七石五斗六升武合九勺 博勞町・小御料庄町
右之分正貝を以上納仕度、右不足之節八十貝ニ付銀	宗鏡寺町	一束四石壱斗三升五合五勺
札三枚直を以、代上納仕候、	地子	八束百九石六斗七升三合六勺五撮
一同八石七斗五升五合		
運上紙		
紺役		

二 仙石氏の藩政

二口メ百拾八石四斗武升八合六勺五撮

宝曆九卯年吟味之事

塩重目

拾弐貫目 香庄村 拾弐貫目 浦上村

同(拾弐貫目) 浜須井村 拾三貫五百目 浜安木村

拾老貫五百目 竹野浜村 拾老貫六百目 切浜村

○ 出石封内明細帳 (出石町域分)

出石神社蔵

桜井一太郎編『但州叢書』に所収、宝曆年間の統計数值を桜井善蔵が蒐集、善蔵は宝曆七年に死去するので、その後に「出石封内明細帳」はまとめられ、一太郎の叢書に所収されたものと推定する。

内容は次頁に一覧として掲載する。

人數一覽

家數	人數			社	寺
	計	男	女		
1,376 軒	5,516 人	2,853 人	2,663 人		
35	195	92	103		
26	119	60	59		
41	155	82	73	古八幡宮	
89	281	139	142	八幡宮・明神社	
24	108	56	52	荒神・天神社	
				伊福部社	
28	129	67	62	荒神	
54	250	117	133	権現社・西光寺	
109	422	205	217	金剛院(山伏)	
74	312	162	150		
32	146	75	71	光森社・八幡宮	
50	114	120	104	九社明神・天神・荒神・竜谷寺	
59	217	116	101	三王権現社・大日社	
16	60	31	29	三宝荒神・天神社	
8	33	17	16	八大荒神・明神社	
18	69	40	29	十二所権現・明神社・荒神	
16	67	31	36	三宝荒神・善立寺	
28	129	67	62	三宝荒神	
25	110	66	44	荒神	
53	226	127	99	中島明神・大森明神・慈等寺	
46	200	96	104	盛重神	
46	195	92	103	天神・荒神・八大荒神	
68	290	146	144	有庫明神・荒神	
77	365	189	176	荒神・地下明神	
62	311	173	138	姫ノ宮社・若宮社・荒神・実相寺	
109	462	237	225	一宮出石明神・總持寺	
13	48	23	25	荒神	
119	455	234	221	内宮・外宮・荒神・宝積寺	
33	127	63	64	斎藤和王社・善光寺	
21	80	46	34	八幡宮	
65	289	151	138	八幡宮・荒神	
19	86	44	42		
52	234	126	108		

二 仙石氏の藩政

田 畑 高・家 数・

村	高	内 訳			新発高	小物成桑代 真綿量
		田	畠	屋敷・麻畠		
出石町分	石合 518.575	石合 395.387	石合 101.156	石合 22.032	石合 5.787	父分厘
寺町分	107.574	82.623	20.284	4.467	2.194	6,035.88
谷山分	157.845	75.868	76.075	5.902	3.513	
水上	329.956	248.045	28.610	14.391		851.2
弘原町分	792.574	362.984	305.485	124.105		
長砂分	68.779	60.444	3.980	4.355		
長砂	68.993	48.614	16.557	3.822	25.291	249.6
細見	364.240	334.992	23.736	5.512	52.977	563.2
荒木	392.546	349.558	32.667	9.920		822.4
福見	106.200	90.342	13.284	2.574	13.765	371.2
弘原中	65.176	38.732	22.803	3.911		
弘原下	191.672	33.836	86.315	6.513		
暮坂居	143.200	120.606	21.444	1.690	31.230	137.7
福伊豆	494.932	389.399	93.430	12.103	11.680	1,644.0
島	827.045	659.980	139.140	27.924	20.323	2,569.6
片間木	457.894	363.266	71.345	23.283	15.768	2,172.8
三大谷	411.181	393.494	12.578	5.109		353.3
丸谷	539.154	507.514	24.841	6.799	2.806	372.8
中谷	557.430	508.709	40.765	7.956	6.389	443.2
森井	116.260	84.263	25.926	6.071	870	226.7
尾崎	89.700	44.939	41.511	3.250	1.885	255.4
鳥居	145.695	115.960	24.444	5.291	2.002	460.8
立石	186.787	144.330	36.737	5.720	3.349	380.8
三宅	296.246	209.281	70.273	16.692	10.941	1,686.4
尾石	288.450	276.147	8.767	3.536	6.124	169.4
森見	643.766	603.243	25.040	15.483	5.149	957.6
市場	337.363	315.068	15.236	7.059	2.818	185.4
穴野	193.495	154.810	17.620	7.020	23.834	743.2
奥野	464.938	426.593	26.201	22.324	14.270	1,103.9
奥野	537.001	472.397	57.194	7.410	23.115	592.0
口小野	345.395	322.209	15.178	8.008	18.447	1,076.8
宮内	985.696	812.267	147.611	25.818	13.477	3,401.4
坪井	126.916	108.335	16.618	1.963	2.870	938.4
袴座	765.000	676.559	74.466	14.065	15.277	1,608.0
田多地	211.913	199.085	9.227	3.601	6.448	314.6
安良	253.048	222.860	24.000	6.188	730	979.2
上鉢山	544.860	499.707	31.282	13.871	421	1,465.6
下鉢山	196.974	179.059	14.444	3.471	1.414	362.3
香住谷	494.440	450.883	30.260	13.351	3.993	806.4
長谷	106.620				6.153	373.0

三 仙石氏『御用部屋日記』

1 定例行事

定例行事

1 大老・年寄出仕日 月々

一日 四日 七日 十日 十二日 十五日 十七日
二十日 二十三日 二十七日 晦日

2 年寄のうち一人が月ごとに御用番となつて執務する。

『御用部屋日記』記入責任者となる。大老・大老席は御用番免除。

五 正月・五節供・諸杉社祭礼日行事（文政五・六年）

（文政五年正月）
元日（御年限中ニ付一統揃服麻上下）

一 憂出仕五半時揃之事

一 御小納戸を以年頭御祝儀伺御機嫌申上ル、

一 御子様方江右同様、原五郎右衛門を以申上ル、

一 同御用部屋江龍出

井上長兵、衛

年始御祝儀申達、

御小姓頭

御用人

一 御大老御年寄共、御目見御蓬萊御祝被遊何連茂頂戴